

パネラー紹介

高柳 枝直

(財)大阪市下水道技術協会 理事長

大阪市下水道に36年間勤務し退職。その間、高濃度嫌気性消化法の確立、合流式下水道改善の新たな展開などに従事。日本下水道事業団大阪支社長、大阪市都市環境局長。18年4月大阪産業大学客員教授。同7月大阪市下水道技術協会理事長。

【発言要約】

現在、下水道システムの安心安全を図るための大きな課題は、浸水対策、合流式下水道改善、改築更新である。この3課題の現状、展望を概説するとともに、3課題解決に取り組む際の、計装制御に係わる課題と展望について述べる。計装制御に係わる課題の事例は、実態把握の計装設備、計測制御の故障と部品交換などであり、ユーザーとメーカーの意見交流が重要である。

中里 卓治

(財)下水道新技術推進機構 企画部長

東京都を昨年退職。その間、下水熱利用、降雨レーダー、下水道光ファイバー、お台場海水浄化実験などに従事。東京都下水道局技術開発部長、施設管理部長。技術士(下水道)、EICA会員、電気学会上級会員、計測自動制御学会会員(計測制御エンジニア)。

【発言要約】

危機管理と維持管理はコインの表裏です。大事故が目を集めますが日常のインシデントの中に必ずその兆候が隠れています。危機を予知する能力が危機を避け、被害を限定することにつながっています。予知能力を身に付けるには、情報や経験の共有と大局観が大切です。そのためにはインシデントやアクシデントの文書化、ネットワーク化と事件を大括りで捕らえて鳥瞰することが必要です。

篠原 哲哉

㈱東芝 社会システム社 水・環境システム企画部長

1980年(株)東芝入社。以来、上下水道施設等の電気設備、各種システムやソリューションのエンジニアリングに従事。

現在は水・環境システム事業部にて企画全般を行う。技術士(電気電子部門、総合技術監理部門)。

【発言要約】

水道原水の汚染から地震やテロなど上下水道施設を取り巻くリスクが拡大する時代背景の中、2002年から2004年(社)電気学会「公共施設のリスク・マネジメント調査専門委員会」にて施設、特に電気設備の観点から調査活動を行なった。民間への業務委託などリスクを体系的な観点から捉える機会も増加している。

清水 久二

横浜国立大学 名誉教授

1961年に東京工業大学理工学部機械工学科を卒業、大学院を経て、1965年同大学理工学部の助手に採用された。1975年より横浜国立大学工学部安全工学科の講師へ転任、助教授、教授を経て、2004年に同学を定年退官、名誉教授の称号を授与された。

【発言要約】

- (1) 原因の徹底的究明は再発防止策になるのか？
決定論と確率論、事実間の従属関係
- (2) 事故とヒューマンエラー学説
技術と技能、工学と社会科学との関係
- (3) 安全の定義:ISO/IEC ガイド 51
安全の仕様書、最近の事故を通して
- (4) 安全装置の定義
- (5) 欧州の安全法制
- (6) 技術と他の領域の専門家との協力